

四国民放クラブだより

空海部会、今回は太山寺(松山)

事務局 上原 富士夫(RNC)
空海部会については、担当幹事、中山博道氏の前号の『同好会』紹介で、発足から昨年までの動きは理解いただけたと思います。今回は続編的に今年の具体的な活動などの報告をさせていただきます。

「四国は一つ」という呼びかけが盛んな時期がありました。しかしそれにこたえて何かが生まれたことは耳にしませんね。やはり「四国はひとつずつ」なのでしょうか。しかしそんな中でおよそ1200年も前から四国を一つに結んできたのが四国霊場八十八ヶ所の札所、寺院でした。どの札所にも修行中の弘法大師空海(尊敬と信愛を込めて)さんのお寺の建立、伝説など足跡があり、空海さんとも歩く「同行二人」というお遍路さんの姿はどのお寺でも年中見かけられます。

部会のことに戻ります。活動の中心は毎年各県で持ち回り開催する「例会」です。いわゆる札所巡りなのですが、どの札所にするか、法話をしていただくご住職との交

渉といったプランを立てたりお話をするのが、四国4県の会員で選ばれたあるいはその役を買って出た幹事さんです。また例会ごとに札所への参詣とは別に、文化施設の見学など、参加する他県の会員の皆さんに豊かな一日を過ごしてもらいたいと、事前の調査などでなかなか大変なことです。

令和元年の11月13日、第25回例会の担当は愛媛の番。担当幹事は会の副会長でもある芝田豊寿さん。脳梗塞後のリハビリ中という状況にもかかわらず責任を果たしてくださいました。大感謝!訪問先は松山市にある第五十二番札所「太山寺」。法話をいただいた吉川俊宏住職も空海部会という大きな名前のグループを買いかぶってくれたのか、予定時間をかなりオーバーしたサービスぶりです、中身の濃い法話をいただきました。一見でのお詣りでは体験できないことか。ご利益の一つか。

空海部会会長の村尾秀治さんは今年の夏、80歳になったとたん脳梗塞になり、今も左足のリハビリ中。今回の松山での空海部会は、

退院後はじめての遠出となり不安もあったが、当日は夕方になって初冬の冷たさを感じはしたが、日中は絶好の秋晴れに恵まれ、およそ3時間かけて高速バスなどを乗り継ぎ太山寺へ向かった。

五十二番太山寺 住職を囲んで



今回の例会を振り返って、お寺の本堂は、和、唐、天竺(インド)の三国様式を取り入れた国宝。重厚なたたずまいとゆるやかな勾配を持った屋根の繊細さは必見の価値があった。みんなも『すばらしい!』の連発だった。吉川俊宏住職の法話のテーマが「人間と宇宙」最後は、地球のゆくすえとか世界遺産に発展、そろそろ第2の空海さんが出現してもよいころだとか、今の科学でも納得のいく説

明のできない地球も宇宙の起源にまで想像をめぐらしての2時間余りの松山例会、実に楽しかった。また、空海部会の会員の中でも発足当初からほぼ毎回例会に参加されており、札所巡りの履歴はトップクラス、先達の資格もありそうな超がつく巡礼者、令和2年には90歳を迎える渡辺義雄さんが四国巡礼への想いを語ってくれました。「私のお寺詣りは古く30年代にはじまりました。当時は二十一番、二十七番、六十番のお寺は全て歩き遍路でした。今は車で門前まで行けますが、今でも思い出されるのが、五十一番札所・石手寺で宿をお願いしましたところ、『急に団体さんが来たので、こちらへどうぞ』と案内されたのが本堂の真ん中で、仏さんの前で一夜を過ごした経験です。空海部会でのお寺詣りは年1回となりましたが、それに参加できるのは、なによりも健康であることを思い知らされるのではないのでしょうか。なるほど。以上部会活動の中心「例会」をもとに、続編を記しました。

令和2年の例会の担当は香川です。たぶん10月から11月にかけての開催になりそうです。